

学習指導案

日時	令和4年 月 日 () 第2・3限				
指導クラス・場所	電気工学科1年 旋盤実習室				
科目(教科)	工業(工業技術基礎)			単元名	旋盤実習
教科書	工業技術基礎 実教出版	副教材		実習用プリント、ノギス	
本時の位置	(3・4時間目/全6時間)				
旋盤実習の目標	アルミ文鎮製作を通して、旋盤の基本的な使い方を習得する。安全に作業をする方法を学び、危険を回避する力を身につける。				
本時の目標	旋盤により、安全に注意しながら文鎮の端面切削を行い、全長を100.0±0.1mmの加工を行う。また、端面中心に突起を残さないように加工する。				
学習活動に即した評価基準	①知識・技術		②思考・判断・表現		③主体的に学習に取り組む態度
	安全に旋盤を取り扱う方法を理解しているとともに丸棒の端面を加工する技術を身に付けている。		旋盤を取り扱う上で大切な点を理解し、丸棒の全長を100±0.1mmとするために両端面を加工する手順を身に付けている。		
時間【過程】	ねらい	学習活動 ○生徒の活動 ・教員の活動	評価基準	評価方法	
20分【導入】	【前回の復習】 動画で効率よく復習する。 【本時の説明】 本時の目標を明確にする。 【評価する点を提示】	○動画を見て旋盤を取り扱う時の手順と注意点について確認する。穴埋め式プリントに注意点を記入する。 ・前回の授業の重要点を動画で見せて説明する。 ・評価する点を明示する。	①	プリントの空白に注意点がしっかりと記入されているかの確認(後日のノート提出時)	
45分【展開】	【個人活動】 前回学習した重要点をふまえて、安全に加工する。	○安全に注意しながら丸棒の両端面を端面切削し、全長を100±0.1mmとしていく。 ・はじめに全員を集めて加工の実演をして見せる。 ・一人一人巡回しながら安全に加工できているか、困っている生徒がいないか確認し、アドバイスをしていく。	①②	丸棒の全長と、両端面部の突起が残っていないかどうかの確認(作品)	

<p>15分 【後片付け】</p>	<p>【個人活動】 清掃はしっかり行わせる。</p>	<p>○旋盤とボール盤周りの片づけ、清掃をする。 ・アルミニウムは資源として再生されるため、アルミ専用の一斗缶に捨てることを伝える。</p>		
<p>20分 【まとめ】</p>	<p>【考察・まとめ】 作品を評価し、本人の改善につなげる。学習内容の定着を図る。</p>	<p>○仲間の端面を見て、工具高さの設定がいかに大切か理解する。 ・1人ずつ全長を計測し、測定値を伝える。 ・端面の仕上がりを生徒全員に見せ、考察させる。 ・加工時の重要点を確認する。 ・Microsoft Formsで授業後アンケートをするよう伝える。</p>	<p>①②</p>	<p>丸棒の全長が基準内であるか。両端面部の突起が残っていないかどうかの確認（作品）</p>